

# 「巡礼」・「遍路」に魅かれて

近年、「巡礼」や「遍路」の旅ブームが起き、人気があります。NHKテレビ「四国八十八カ所」が放映された影響で全国的に知られるようになりました。また、五木寛之氏の著書「百寺巡礼」の影響もあるかも知れません。

巡礼・遍路が注目を浴びるのはなぜでしょうか。

『巡礼・遍路がよくわかる事典』の一節に「……古代より世界中で時空をこえて続けられてきたこの行為には、とてつもない魅力と作用が秘められている。……」とあるように、そんな魅力に魅かれて巡礼・遍路について探ってみました。



巡礼風景

## 巡礼の歴史

巡礼を始めるにあたって、ブームの巡礼・遍路の歴史について

- 少し調べてみました。(概略)
- 日本語の「巡礼」という表現が登場したのは円仁の『入唐求法巡礼行記』が最初(八三〇〜八四七年)
- 日本的な巡礼(複数セットの聖地をめぐる)の形態は、南都七ヶ寺僧侶による巡礼が古い(九八七年)
- 本来の意味での巡礼の最初は十世紀末から観音菩薩は三十三に変身するという教えを受けて、三十三か所の観音霊場巡りが始まった。創始者は花山天皇とされているが、史実の上では、三井寺の僧・覚忠が応保元年(一一六一年)に七十五日かけて回った記録が最も古い。最初のうちは一部の修行僧のみ
- 室町時代になって西国三十三所巡礼が一般に広まり始める。
- 弘法大師ゆかりの四国八十八所巡りの遍路の巡拝が形を整えたのは室町末期から江戸時代初期といわれています。
- その大衆化に貢献したのが、真言宗僧真念による案内書『四国遍路道指南』(一六八九年)です。
- 江戸時代にはいると巡礼が爆発的なブームとなった。
- モータリゼーションの進展・

本州と四国を結ぶ橋の開通で現在のブームへ。

設楽町に残る先人の足跡  
設楽町教育委員会編纂の出版物や奥三河郷土館の展示品から先人たちの巡拝の足跡を調べてみました。

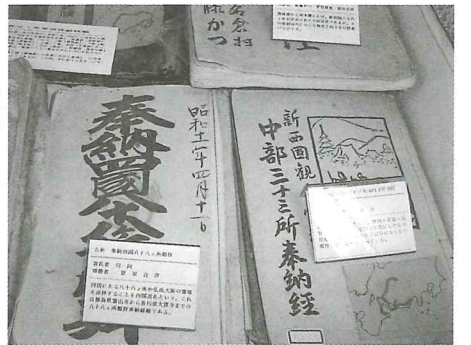
【往来一札】

三州設楽郡黒倉村住人 以志と申女 禅宗拙寺旦那二紛無御座候此度西国順礼ニ罷出申候 依之諸國御番所無滞無通シ可被下候若シ此者途中にて病死等候ハハ其処御左法ヲ以御取仕舞被下候 尤此度御届ケニ及不申候 為後日の往来一札仍て如件

天保六年 乙未八月日 田口村禅宗 福田寺 印

諸國御番所 町在御役人衆中

(設楽町誌 近世文書編Ⅰ)  
天保六年(一八三五)黒倉村の女以志(いし)が西国順礼の折、田口村福田寺より発行された通行手形である。当時としては、女性の一人旅は大変珍しい。往来一札の資料には、この他にも数例あります。



【笈(おい)】  
旅の僧侶や山伏などが、仏具・衣服・食器等を入れて背負う用具で、資料の笈は、名倉の佐右衛門という行者が使用

【納札入れ】  
参拝の記念にと社寺へ納める住所・氏名を書き付けた紙片(納札)を入れて道中下。小松の正木氏が、使用年代前後に(四国と西国・坂東・秩父百霊場)巡拝に用いたもの。

(したちの民間信仰用具Ⅰ)  
【名倉新四国巡拝納経帳】  
大正三年清水下山(西納庵)を第一番とし、長江御堂山観音堂を八十八番とした名倉八十八ヶ所が民家や小堂を札所として開設(代替手段のウツシ巡礼)。これは、なんらかの理由で巡礼を欲しつつも果たせない人々が、実際と同等の功德にあやかりたいという願いから設立された。

(したちの文化財7)

あとがき

紙面の都合で割愛させていたいただいた内容や資料も多い。歴史上、庶民の生活に余裕が生じてきた江戸期からの修行・旅の様子を記しました。

代替手段としてウツシ巡礼としてのミニ巡礼めぐりや信仰的講による代参、巡礼塔や三十三観音石仏の造立により巡礼の功德にあやかるうとした願いや情熱が伝わってくる資料が意外と多いのに驚かされました。郷土館の展示を改めて見直してはいかがでしょうか。

(設楽町文化財保護審議会委員 田邊 雅己)